

窓リフォーム断熱性向上

電気料金の値上げが続く中、電気代の節約につながるとして、窓の断熱性を高めるリフォームが注目されている。国も今年度、窓の断熱リフォームに特化した補助事業を始めたので、賢く活用したい。



千葉県浦安市に住む会社員の権田和裕さん(73)は、2020年3月に自宅の窓をリフォームした。マンションの角部屋で窓が多く眺望が良いが、1枚ガラスのため、冬の寒さと結露が長年の悩みだった。

工事は日本板硝子のグループ会社、サンクスコーポレーション(東京都江戸川区)が請け負った。

リビングの窓は内窓をつける。眺望が狭まるため、窓枠は変えず、ガラスを日本板硝子の「スペーシア」に交換した。2枚のガラスの間に真空層が挟まれた特殊な造りで断熱性が高い。

一方、書斎の窓は、リクシルの内窓「インプラス」を設置し



た。窓枠が樹脂製で結露しにくく、防音性も高い。権田さんは「おかげで朝起きたときも部屋が暖かく、結露を拭く作業がほとんどなくなりました。暖房をつける回数も減り、電気代も減った」と話す。

このほか、外窓交換という方法もある。既存の窓枠の内側に新たな枠をはめ込むなどしたうえで、複数のガラスの間に空気層がある「複層ガラス」を設置する方法だ。



▲ 真空ガラス「スペーシア」に交換したリビングの窓(千葉県浦安市で)

内窓「インプラス」を設置した書斎の窓(千葉県浦安市で)

ガラス交換、内窓設置 / 公的補助活用

や自治体の補助金をうまく活用したい。

経済産業省と環境省の「先進的窓リノベ事業」は、窓の断熱リフォーム支援に1000億円の前算を組んだ。光熱費を軽減し、家庭からの二酸化炭素排出量を減らすのが目的だ。自治体の補助事業とも併用できる。

先進的窓リノベ事業の補助対象は、熱の伝わりやすさを示す数値などが一定の基準を満たすリフォームで、工事内容によって補助額が決まっている。上限は1戸当たり200万円だ。

リクシルの試算によると、大型窓2か所と中型窓1か所に断熱性のグレードが上から2番目の内窓を設置した場合、リフォーム費用は37万8000円。補助額の合計は22万5000円で、実質負担額は15万3000円に抑えられる。冷暖房費が削減されるので、家計の負担はさらに下がる。

補助を受けるには、補助事業に登録した業者で工事を行う必要がある。専用サイト(<https://window-renovation.env.go.jp/>)で地域ごとの登録業者を検索できる。問い合わせは、先進的窓リノベ事業事務局(0570・200・594)へ。